

## <基本情報>

所在地：大分県玖珠郡九重町

## <農場概要>

- 面積：1.6ha（すべて有機栽培、うち有機JAS認証：0.8ha）
- 従業員：約10人（家族3人、パート複数人※時期によって増減）
- 栽培品目：ブルーベリー（約30種類の品種をリレー栽培）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 2008年に公務員を早期退職。両親が少量で栽培し、当時九重町が産地化を推進していたブルーベリーに魅力を感じ、2013年から栽培を開始。現在では県内トップクラスの1.6haまで生産規模を拡大。
- 2013年に宮崎県で開催されたGLOBALG.A.P.の会議に参加したことを契機に、国際的な第三者認証への高い関心を持った。
- 2016年にGLOBALG.A.P.、2019年に有機JAS認証を取得。時間も費用もかかるが、取引先からの信頼と販路拡大に寄与。
- 2024年には、みどり認定を受ける。

## <販売について>

- 東京、大阪、福岡をはじめとする県外の大手スーパーや生協を中心に販売。
- GLOBALG.A.P.や有機JAS認証の取得は外資系企業との取引にも有益。



## <リスク分散、周年出荷について>

- 地熱利用ハウスや標高の異なる複数ほ場での栽培によりリスク分散するとともに、冷凍加工品を生産することで、生果との周年出荷体制を実現。

## <農福連携について>

- 社会福祉法人へ摘み取りや選別の作業を委託し、農福連携にも取り組む。

【お問合せ先】 Tel・Fax 0973-78-8917  
代表者携帯電話 090-3329-0507

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
剪定作業では、風通しを良くし樹体全体に日光が当たるよう留意。
- **雑草対策**  
刈払機や自走式草刈機を使用。近年の高温対策として地温が上がり過ぎないように、雑草の丈を調整しながら高切りにしている。
- **土づくり**  
取引先のニーズに応じた土づくりを実践。有機JAS認証ほ場では使用可能な堆肥資材を散布。特別栽培ほ場ではアミノ酸由来の資材を使用するほか、町内業者が製造する珪藻土由来の資材を利用し土壌のPh調整を行っている。

## <苦労しているところ>

- 収穫や除草作業は人力だよりとなるので、人材確保に苦労。

## <取組の成果>

- 2024年度大分県農業賞（個人的農業経営部門）で最優秀賞を受賞。有機生産者の同賞受賞は画期的なこと。

## <今後の展開>

- 2025年産から、収穫後の紅葉したブルーベリーの枝を「枝物」として販売。
- 将来的には、農福連携の観光農園を運営したい。
- 目標は「ビッグでなくストロング」。



## <基本情報>

所在地：大分県佐伯市

## <農場概要>

- 面積：約1ha（すべて有機）
- 栽培品目：米、露地野菜（にんじん、玉ねぎ等40種類以上）  
採卵鶏11羽



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 園主の 豎山 剛 さんは、東京の企業で働いていた30歳過ぎの頃、福岡正信氏等の著作を読み、消費するだけの生活、食べることにについて疑問を持ち始め、有機農業を志す。
- 有機農業を実践するため、34歳の時、企業を退職して鹿児島県いちき串木野市に移住。JAへ勤める傍ら、米、麦、露地野菜の栽培を開始（約1ha）。自然卵養鶏で150羽を飼養していたが、台風により鶏舎が崩壊。
- 奥様の大分県への転勤に伴い、再移住を決意。大分県内で移住先を探す中、数々の縁が繋がりに、平成25年（2013年）に大分県佐伯市に再移住。
- **令和4年（2022年）に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- 米、野菜を佐伯市学校給食に提供。
- 個人販売、マルシェへの出店。
- 生産された有機野菜は、奥様が経営するカフェでも提供。



## 【お問合せ先】

オーガニックカフェ たら・ぷれた（奥様経営のカフェ）

Instagram : [@terapuleta](https://www.instagram.com/terapuleta)

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
太陽熱養生処理、作付けする場所や時期の分散、連作を避ける。
- **雑草対策**  
草が小さいうちに管理機で中耕を行う等、こまめに物理的防除を実施。
- **土づくり**  
鶏糞を主体に、稲わら、米ぬか、もみ殻燻炭、竹炭等を自らブレンドした堆肥を使用。

## <苦労しているところ>

- 管理機等、機械が小型であり、労力、時間共に多く必要なところ。

## <今後の展開>

有機栽培による作物の安全性はもちろんのこと、品質を保ったまま、美味しく、見た目の美しさも追及していきたい。



## ＜基本情報＞

所在地：大分県臼杵市野津町

## ＜農場概要＞

- 面積: 3 ha (すべて有機)
- 従業員: 5名 (夫婦、雇用3名)
- 栽培品目: なす、はくさい、ケール等露地野菜(約80種類)



## ＜有機農業に取り組むきっかけ＞

- 園主の槌本俊貴氏は、子どもの頃から野菜嫌いであったが、大学在学中(国際関係学部)に、ある有機農家が作った野菜の美味しさに感動し有機農家を志す。就職活動として全国の農家などを訪問する中で、臼杵市の積極的な有機農業推進の取組に感銘。
- 平成28年(2016年)に新卒で臼杵市地域おこし協力隊へ。有機農業研修生第1期生として、同市内の有機農家で3年間の研修。
- 平成31年(2019年)4月に就農(約70a)。
- 令和4年(2022年)3月に有機JAS認証を取得後、長野県内の先進的有機農家でスタッフとして半年間の修行。

## ＜販売について＞

- 小売店卸、飲食店卸への出荷が中心。主な販売先は関東・関西や福岡市など。さらに販路開拓中。個人宅配も実施。



【お問合せ先】TEL. 080-1407-7736

ホームページ：<https://tsuchimotofarm.com>

## ＜病害虫対策・除草対策・土づくり＞

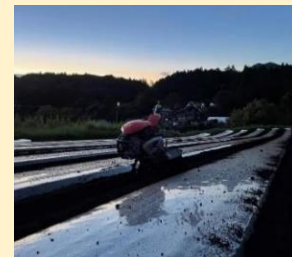
- 土壌分析結果に基づく科学的な土づくりを重視。オーガニックビレッジの臼杵市が運営する土づくりセンターで作られた「うすき夢堆肥」(草木類8割、豚糞2割)のほか、アミノ酸肥料、自家製ぼかし肥料(米ぬか、魚粕、油粕、カニ殻など)や発酵鶏ふんなどを、土壌の状態に応じて効果的に活用。
- BLOF理論に基づく太陽熱養生処理による土壌団粒化の促進と雑草対策。収穫した野菜の状況から土壌の状態を注視・観察。
- 防草シートや中耕による初期除草の徹底、銅やカルシウムなどミネラルの活用による病害虫抵抗力の向上、害虫の発生状況に応じた防虫ネットなど資材の効果的な活用。

## ＜苦労しているところ＞

- 多品目栽培は多くの手間を要するが、槌本農園のさらなる強みとなるよう取り組んでいきたい。

## ＜今後の展開＞

- 販路開拓に伴う圃場面積・生産量の拡大と、真剣に農業に向き合える人材の雇用を進めたい。
- 生産性の向上。規模拡大を進めながら、機械を有効に活用した効率化を進めたい。



## <基本情報>

所在地：大分県豊後高田市

## <農場概要>

- 面積：2.2ha（すべて有機JAS取得）
- 従業員：2名
- 栽培品目：野菜4品目



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 代表は北海道出身。20年以上関東地方で勤務していたが、田舎での落ち着いた生活を求め移住を検討。
- 豊後高田市は移住対策や子育て支援に積極的で旅費や家賃の支援もあり、のどかな風景と趣味の温泉も近場にあったことが決め手。
- 無農薬で家庭菜園をしていた経験から、自然と有機農業を選択。
- 世界農業遺産である国東半島の気候を利用した栽培に取り組む。

## <販売について>

- 販売の際の差別化や有利販売のために、全ほ場で有機JAS認証を取得。慣行栽培より高めの価格設定で販売できている。
- 就農当初は少量多品目で栽培していたが、栽培計画がうまくできずに出荷が重なり廃棄した経験から、現在は4品目（じゃがいも、にんじん、さつまいも、オクラ）に絞り込んでいる。
- 根菜類は葉物野菜に比べて出荷調整や栽培のスケジュール管理がしやすいので、大ロット・安定供給を目指す方向にシフト。
- 仲卸業者を通してイオンのオーガニックブランド「グリーンアイオーガニック」にも出荷。市内の学校給食にも提供。



## <農福連携について>

- 近隣の福祉事業所へにんじんの収穫作業を委託。当初は一緒に作業していたが、現在は作業を分担して任せている。

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 土づくりには堆肥と緑肥を組み合わせて投入。
- 土壌分析を行い適切な施肥栽培を心掛けている。
- アミノ酸系肥料や海藻ミネラル系資材も肥料として活用することで、大ロット出荷でも食味や栄養価、棚持ちの向上を図っている。
- 管理機での畝間除草やサブソイラーを使った土壌の保水性や養分保持力の改善に取り組んでいる。

## <苦労しているところ>

- にんじんの団地化などで面積を広げ、経営規模の拡大を図りたいが、当市は白ねぎ産地のため条件の良いほ場は白ねぎが優先されてしまう。（R8年に森林を開墾して面積を拡大予定。）
- 堆肥を使う生産者が増えたことで、堆肥の取り合いになっている状況。質の良い堆肥の確保が課題。

## <今後の展開>

- 有機農業を始めたい地域の新規就農者に、自身の経験やノウハウを共有し、後進の育成に貢献したい。
- 「美味しさ」や「二酸化炭素の排出量削減」など有機栽培のメリットを客観的根拠で示して販売につなげたい。



## <基本情報>

所在地：宮崎県日之影町

## <農場概要>

- 面積：茶5.3ha（全て有機JAS認証を取得）
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立
- 労働力：代表夫妻、父、正社員等10人



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 先代の父が行っていた茶栽培を、全て無農薬・無化学肥料の有機茶栽培に切り替えることを条件に、現代表が平成4年（1992年）に就農。
- その後、徐々に有機栽培を進め、平成15年（2003年）に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 販売量は年間約16トン。殆どが釜炒り茶で他に紅茶、烏龍茶を製造。
- 販売先は直販が7割で、その他はJA等。
- 人口減少による国内茶市場縮小が進む中、更なる販売拡大を見据え海外輸出にも取り組む。現在の主な輸出国はカナダ及び欧州。
- その他、消費者の多様なニーズを踏まえ、ティーパック茶、粉末茶等の商品を開発して販売。



【お問合せ先】 Tel. 0982-87-2643 Fax. 0982-87-2648  
ホームページ：<http://www.issin-en.com/>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
  - ・病害虫に弱い品種（やぶきた）から病害虫に強い品種（さえみどり、かなやみどり、みやまかおり等）へ品種分散。
  - ・2番茶収穫後、適正な時期に剪枝を行い、病気の発生を抑制。
- **雑草対策**
  - ・中熟の草堆肥を畝間に敷くことで雑草を抑制。
- **土づくり**
  - ・ススキ等の草と焼酎かすを利用した自家製発酵草堆肥やなたね油粕・米ぬかを発酵させた肥料を施用し、高品質な有機茶生産を実現。
  - ・圃場ごとに年1回の土壌診断を必ず行い、微量要素の状況を確認し、適切なミネラルバランスを取り、栽培土壌の最適化を図っている。

## <苦労しているところ>

- 急傾斜地での茶摘みや除草作業が重労働になっている。特につる性の雑草や宿根性のヤブガラシなどの除草に苦労。

## <現場の課題>

- 気候変動に伴う夏場の作業における暑さ対策。

## <今後の展開>

- ハーブ等のブレンドティーの開発やお茶に関する体験イベントなど、新たな取組に挑戦中。



## <基本情報>

所在地：宮崎県五ヶ瀬町

## <農場概要>

- 面積：15.5ha { 有機JAS認証ほ場 14ha  
有機転換期間中 1.5ha
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 知人の農薬による事故を契機に、前代表が無農薬・無化学肥料栽培の必要性を感じ、五ヶ瀬の冷涼な気候や標高の高い立地条件を生かした有機茶栽培を昭和58年（1983年）開始。
- **平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- 有機JAS認証品を販売。釜炒り茶が主体でその他、紅茶、烏龍茶、番茶。
- 販売先はネット販売・直売所・JA等。
- 今後、国内の人口減少による茶市場縮小が考えられる中、更なる**販売拡大を見据え海外輸出にも取り組む**。輸出国はドイツ、ベルギー、チェコ、スイス、カナダ、アメリカ。



【お問合せ先】TEL. 0982-82-0211

ホームページ：<http://www.miyazaki-sabou.com/>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
  - ・病害虫に弱い品種（やぶきた）から抵抗性のある品種（みなみさやか、はるのなごり等）へ改植中。
  - ・施肥量を少なくすることで、病害虫の発生要因となる葉の密生を抑制。（標高約650mで冷涼地のため害虫は少ない）
- **雑草対策**
  - ・草刈り機と人手による除草。（特に8月～10月）
- **土づくり**
  - ・畝間に茶の刈り捨て葉を撒き豚ふん堆肥を施用。
  - ・追肥は肉かすとごま油かす。

## <苦労しているところ>

- 有機栽培は除草が重労働になるため、自動草刈り機に関心。

## <現場の課題>

- 有機栽培茶の流通量が増えることによる価格低下が心配。

## <今後の展開>

- 消費者・バイヤーのニーズを把握し、販売先を多様化していきたい。また、15.5ha全てに有機JAS認証を取得し、有機茶の生産量を確保することで、輸出の拡大を目指す。



## <基本情報>

所在地：宮崎県綾町（有機農業条令・オーガニック給食推進条令制定の町）

## <農場概要>

- 面積：9.5ha（うち有機JAS圃場：3.5ha）
- 栽培品目：レタス・ブロッコリー・キャベツ・ニンジン・かんしょ・ごぼう・水稻 等



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 葉たばこ農家の時代に、農薬・化学肥料を多量に使用する栽培に不安を感じていたとき、綾町の有機農業条令（自然生態系農業）が昭和63年に施行され、行政の支援もあり有機農業に取り組む様になった。
- **平成14年(2002年)に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- 販売先は、イオン、グリーンコープ、夢タウン、ハーティながやま、シーガイア等との契約生産



（紙マルチ田植え機）



（アイガモロボット）



（畑地湛水防除）

## <病虫害対策・除草対策・土づくり>

- **病虫害対策**  
畑に水を張る「湛水防除」や、自家堆肥（馬糞）の使用により、元肥の使用を少なくする等の工夫をしている。
- **除草対策**  
基肥を入れ畝立てした後に透明マルチを張り、太陽熱による対策を実施している。
- **土づくり**  
輪作の中に計画的に緑肥を入れることで、体系的な土づくりに取り組んでいる。

## <現場の課題>

- 人手不足や資材高騰等で、規模拡大が難しくなっている。
- 地球温暖化の影響により、夏は猛暑、秋・春が無くなったことで、作型や品種の見直しが必要になった。

## <今後の展開>

- 人材育成の体制を充実させることで、綾町自然生態系農業を承継する後継者を育てていきたい。

## <基本情報>

所在地：宮崎県都城市

## <農場概要>

- 梅 約7ha、1,800本（鶯宿梅（約7割）、光友一号、白加賀など）
- 無農薬で栽培し、自社で無添加加工・製造を行い販売
- 従業員9名（うちパート2名）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 終戦直後、農薬により虫などがいなくなったり、土壌が固くなるなどの現場を見て、無農薬の自然栽培を目指した。
- 企業理念は、「土は命、食べ物は人の命」。

## <販売について>

- 青梅の収穫量は年間約10～15トン。
- 青果として市場に販売すると、原価割れの価格となるため、自ら価格を決定できる自家加工品として、直接販売を行っている。
- 主な販売先は、「道の駅」都城NiQLL、みやざき物産KONNE及び自社のオンラインストアで、国内販売を優先している。
- 「都城盆地鶯宿梅の梅干し」が原料と製法にこだわった地域食品ブランド表示基準である「本場の本物」認証を宮崎県で初めて受けた。



【お問合せ先】TEL. 0986-22-6325 Fax. 0986-22-2809

会社ホームページ <https://www.koubaien.com>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策

梅の周りに深い溝を掘り、大量の堆肥投入により樹勢を強くすることで病害虫の被害を抑え、被害を受けた枝は小まめに剪定するなど小まめに対処している。

### ● 雑草対策

刈払機等で年に6回前後。従業員の6割が女性であるため、自走式草刈り機も使用。

### ● 土づくり

開園以来60年以上、園の下草、河川敷の草、油粕、鶏糞など動植物由来の有機物を施用することで、細い棒が1メートル以上入る柔らかい土壌を培う。



## <現場の課題>

- 梅園の管理、製品の販売等は今後、高齢化等により労働力の確保が難しくなるため、人材の確保と育成が必要。

## <今後の展開>

- これ以上の規模拡大ではなく、土づくりに専念し、樹木に最適な環境を作り、有機栽培の循環サイクルを次世代へ継続させる。品質を低下させず消費者との信頼を確保。



## &lt;基本情報&gt;

所在地：宮崎県えびの市

## &lt;農場概要&gt;

- 面積：約20ha（うち有機JAS認証取得：約3.5ha）
- 従業員：17人（代表役員含む）
- 栽培品目：主食用米、オクラ、カボチャ、ピーマン、ごぼう、キャベツ、ほうれん草、じゃがいも、ぶどう、イチジク、柿、栗、きんかん等



## &lt;有機農業に取り組むきっかけ&gt;

- 会長の本坊照夫氏が、昭和46年に就農した際、農薬使用が原因と思われる体調不良に陥った経験から、徐々に取組を進め、**昭和58年から本格的に開始。**

## &lt;販売について&gt;

- 自宅に隣接する直売所「笑美農(えびの)市場」で、自社生産の米・野菜のほか、味噌、梅干し、あくまき等の加工品も販売。また、**平成30年5月に、6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を受け、玄米コーヒーを開発・販売。**
- 道の駅えびの、宮崎県内のスーパー等に、真空パックした米（商品名「笑顔米」）、生鮮野菜、加工品を納品するとともに、「笑顔米」等をインターネットを通じ直接販売。



【お問合せ先】TEL. 0984-33-1610

ホームページ：<https://ebinoitiba.com/>

## &lt;病虫害対策・除草対策・土づくり&gt;

- **病虫害対策**  
土づくりをしっかり行うことが一番大切。土がよくなると植物体が強くなるため、大きな被害が発生することはない。
- **雑草対策**  
雑草がまだ小さいうちに、手押し型管理機や乗用管理機による早めの畝間中耕を行っている。
- **土づくり**  
牛糞に、籾殻、海藻、木炭、カニ殻、竹パウダーなどを混合し、2か月間発酵させた中熟(中心温度40℃程度)堆肥を圃場に撒き、1か月程度土になじませる。

## &lt;苦労しているところ&gt;

- 自社農産物の販売先の確保のほか、除草作業(全作業時間の約半分を占める)、長年試行錯誤を重ねてきた土づくり。
- 有機栽培を志す農業者の育成方法を確立していくこと。

## &lt;今後の対応&gt;

- 畜産農家と連携してえびの市一体となり有機農業を推進していくことや、県内の業者と連携して有機農産物を原料とした加工品（地ビール、甘酒等）の開発・販売。



## <基本情報>

所在地：宮崎県児湯郡新富町

## <農場概要>

- 面積：18ha（うち有機JAS認証取得6.5ha）
- 従業員：14名（代表役員含め5名、パート9名）
- 栽培品目：米、にんじん



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 18歳の時、両親の後を継いで営農開始し、30年ほどは慣行栽培で米及びかんしょ等を生産。このままの営農を継続するか、持続可能な農業を目指していくか悩んだ末、有機栽培を行うこととし、平成20年（2008年）に有機JAS認証取得。

## <販売について>

- 有機JAS認定ほ場で生産した農産物は、関東、関西を中心に、九州・県内へも出荷。
- 令和3年8月に有機米を台湾へ輸出したところ、即完売。令和4年以降、台湾やシンガポールでの新富町物産展や食のイベントに参加。

有機米の商品名「宮本」は代表者宮本氏から命名→



## <飲食事業について>

- 有機農産物は全て関東・関西へ出荷していたため、「どこで買えるのか」と地元の要望があったことから、令和3年に「有機米農家おにぎり宮本」を開店。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
米のいもち病とカメ虫防除には、有機JASで使用が認められた天然鉱石を使用。
- **雑草対策**  
代かきを3回行い、その後、深水管理することで雑草を抑制。冬作を行っていないほ場は、複数回耕耘し、次年度の雑草抑制。
- **土づくり**  
有機ほ場は全て水田。野菜と米の輪作（2年3作）体系で、稲わらをすき込むことにより、ほ場に有機物還元。たい肥は自作でなく、有機JASで使用が認められた豚ふんを施用。

## <苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、指導者もおらず栽培技術も未熟で、収量・品質が安定せず収入が少なく、営農継続困難となった。農業をやめようと考えていた頃、金融機関から融資を受けることが出来、営農を継続するうちに技術確立し、収入が安定し、現在に至る。



【お問合せ先】TEL. 090-3609-6496

ホームページ：<https://www.organicfarmzero.com/>

## <基本情報>

所在地：鹿児島県霧島市

## <農場概要>

- 茶27ha、全て有機栽培
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立
- 平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 平成5年（1993年）、茶の価格が低迷する中、茶に付加価値を付けるため、霧島山麓の冷涼な気候や標高の高い台地の地条件を生かした有機茶栽培を開始。

## <販売について>

- 販売する全商品が有機JAS認証品。
- 茶の市場が低迷する中、国内の茶市場では販売先の限界を感じ、平成27年（2015年）、ドイツに「KIRISHIMA UG」（欧州支店）を設立。
- 現在、年間約8t（生産量の約2割）をEUを中心に輸出。海外での日本茶ブームもあり、輸出量も増え、安定した価格で取引を実現。
- 国内でも有機茶として有利販売を実現。



【お問合せ先】TEL.0995-45-0036

会社ホームページ<http://kirishimacha.web.fc2.com/index.html>

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
病害虫に弱い品種（やぶきた）から病害虫に強い品種（あさのか、かなやみどり）へ転換することにより、無農薬栽培を実現。
- **雑草対策**  
メインは草刈り機による除草+人手による除草。
- **土づくり**  
茶のおいしさは肥料の投入量と比例するため、家畜糞に米ぬか・粃殻・菜種油粕・鯉ソリュブル・糖蜜を混ぜた自家製有機堆肥により、高品質な有機茶生産を実現。

## <苦労しているところ>

- 有機農業は草との戦い。除草作業が軽減できるよう、茶園で使える自動草刈り機の実用化に期待。

## <今後の展開>

- 山林の開墾や耕作放棄地を活用し、生産面積を50haへ規模を拡大。



除草前



除草後



## <基本情報>

本部所在地：鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町

## <農場概要>

- 構成員：162戸（有機JAS取得102戸）、職員45名、パート30名
- 面積：275ha
- 栽培品目：約120品目（有機野菜、果樹、茶など）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

大和田前代表ご夫妻が大学在学中に公害問題に関心を持ったことをきっかけに有機農業の道に進み、昭和55年（1980年）鹿児島市で就農し有機生産を開始。昭和59年（1984年）に有機生産組合「かごしま有機生産組合」を10戸で設立。

## <販売について>

- 直営店「地球畑」が県内に3店舗と有機野菜の食べ方の提案も兼ねた地球畑カフェ「草原をわたる船」。



- 全体の3割は直営店舗で、その他の主な出荷先は「オイシックス・ラ・大地株式会社」、(株)ビオ・マーケットを通じた宅配やスーパーマーケットへの卸、コープ九州、その他の生協等。
- 毎年3~4回首都圏のマッチングフェアに参加。
- 平成30年（2018年）4月に海外事業部で輸出事業をスタート。
- 4~5年前から人参ジュース・りんご人参ジュースやごぼう茶・黒糖生姜湯を開発、ベビーフードの開発では、平成30年（2018年）に鹿児島県特産品協会理事長賞を受賞。

## <特色ある活動>

- 新規就農者のための研修施設「有機農業支援センター」があり有機苗の供給も行う。

- オーガニックフェスタ（毎年5万人の来場者）を開催・出展。
- 平成29年（2017年）からネパールへの技術支援も開始。

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

生産体制強化のために品目部会及び地域毎の支部会、年2回の作付会議やフォーラム（講習会・分科会）を行ない、経営力向上と栽培技術の共有等を行う。

- **病害虫対策**  
土着天敵の活用や適期の播種、コンパニオンプランツの活用。
- **雑草対策**  
太陽熱処理の活用、緑肥の活用。
- **土づくり**  
土壌分析に基づき、土壌の肥沃度を高めることを優先課題とし、近年は特に緑肥の利用に取り組む。

## <苦労しているところ>

- 物流コストと資材コストの高騰。



## <今後の展開>

- 有機農産物への国内ニーズと海外ニーズの高まりに対応した生産体制の構築と面積の拡大。

【お問合せ先】TEL. 099-282-6867  
生産組合ホームページ <http://kofa.jp/>



## <基本情報>

所在地：鹿児島県鹿児島市

## <農場概要>

- 有機野菜等（にんじん、さつまいも、えだまめ、ばれいしょ等）10ha
- 有機JAS認定ほ場で農産物を生産
- 有機農産物にこだわった農園直営店舗を展開



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和53年（1978年）に父の病気をきっかけに有機農業を始め、平成17年（2005年）に子供達（兄弟姉妹）が経営を引き継ぎ、平成25年（2013年）から直営レストラン「森のかぞく」を鹿児島市内で展開。（現在閉店）



## <販売について>

- 販売は県外の卸会社数社向けを中心に、県内では直営店のほか、コープ生協、スーパーハルタ、地球畑、物産館等へ出荷。
- 平成25年（2013年）に自社農園野菜と有機農産物にこだわった直営レストラン「農園食堂森のかぞく」をオープン。
- 平成26年（2014年）に法人化し、有機農産物や加工品の販売先を拡大。令和元年（2019年）に森のかぞく Airakitchenを始良市にオープン。コロナ禍でレストランから有機野菜を使った弁当惣菜の製造販売へとシフトし、現在13店舗に卸販売を行う。
- 自社の人参を使用した「食べる人参ジュース」を委託製造し、直売所や県内のこだわりを持った店舗で販売。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策

太陽熱利用土壌消毒を実施。草堆肥等を利用した土づくりにより、健全な野菜等が育つ環境を整える。

### ● 雑草対策

太陽熱利用土壌消毒を夏場実施。この処理を行えない時期はマルチを使用。手作りの除草機で、雑草が小さいうちに除草。

### ● 土づくり

畑を痩せさせないため年一作とし、他の期間は緑肥を栽培しほ場に還元。主に落ち葉や刈り草を原料にした草堆肥を使用し、毎年、土壌分析により不足する成分（ミネラル等）の資材も投入。



## <苦労しているところ>

- 栽培技術が確立出来ていないこと。

## <今後の展開>

- 弁当惣菜の安定製造と販売を引き続き目指すとともに、生産性向上のために機械化と効率化に取り組む。
- 草堆肥の安定生産を目指し、湧水農場に堆肥舎を建設予定。また有機農業技術を確立させ、収穫量の安定と品質向上を目指す。

【お問合せ先】 TEL :099-802-6100

農園ホームページ : <https://morikazo.com>

## <基本情報>

所在地：鹿児島県日置市東市来町

## <農場概要>

- 6 haの農場でにんじん、だいこん、さつまいも（紫いも）、水稻（古代米、ヒノヒカリ）、キウイフルーツを生産。
- 有機JAS認定を取得。



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 農薬等の影響で体調不良となる農家が、少なくないことを聞いたことがきっかけ。有限会社かごしま有機生産組合で有機農業の研修を受け、有機農業に従事。
- 平成29年（2017年）に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 9割は、有限会社かごしま有機生産組合に出荷し、地域の物産館（日置市こけけ特産品販売所）にも出荷。その他、ふるさと納税返礼品、SNS等を通じて直接販売。
- キウイフルーツは、地球畑（鹿児島市）に今年から販売。
- だいこん、にんじんは、東市来小・中学校の給食用にも納品。



## <作物の多角化について>

- だいこん等の収穫作業は、重労働なので、年齢を重ねても有機農業に取り組めるように、キウイフルーツ、カンキツ類の栽培にも取り組む。キウイフルーツは、今年から出荷。
- 夏場の収入を確保するために、切り餅の製造・販売を検討中。

【お問合せ先】TEL. 080-3960-3622

ジャラン農園 Jarun Farm | Facebook



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

### ● 病害虫対策

農薬は、一切使わず、土づくりをしっかりと行うことで病害虫の発生は減少。  
また、キウイフルーツ、カンキツは、カミキリムシの食害（木くず）を発見するため、栽培木の株元の除草を徹底。

### ● 雑草対策

畝間も含めてマルチ被覆している。特にマルチ穴の株元の除草に苦労するので、雑草が小さいうちに手取りを徹底。  
冬にんじんは、夏に透明マルチ被覆による太陽熱土壤消毒で雑草を抑制。水稻は、ジャンボタニシが除草。

### ● 土づくり

野菜・いもは、栽培前に緑肥を作付け・すき込みを実施。  
また、畑の状態を観察して、鶏糞を必要な量、散布。

## <苦労しているところ>

- さつまいもの害虫（コガネムシの幼虫）による食害。
- 気候変動による植付け時期の見極め。

## <今後の展開>

- 機械が使えない狭い水田で、今年から冬期湛水、直播等の自然栽培農法の実証に取り組む予定。これにより、手間・コストを掛けずにコメの生産を行うとともに、地域の農地を守る。

## <基本情報>

所在地：鹿児島県屋久島町

## <農場概要>

- 有機 J A S 認証圃場面積：12ha（1枚の圃場面積10a程度）
- ばれいしょ4ha、ウコン1ha、かんしょ50a
- ウコンは、粉末に加工し販売（有機加工 J A S 認証を取得）

集落の象徴ともいえる美しい山「モッチョム岳」。

農園の名前にも、お借りしています。



## <有機農業に取組むきっかけ>

- 慣行栽培のばれいしょの価格が半値に下がった時期に、知人が栽培する有機栽培のばれいしょの価格は、下がらず取引されていた。このことから、経営の安定を図るため有機農業を始めようと決意。
- **平成15年（2003年）に有機 J A S 認証を取得。**

## <販売について>

- 販売する全商品が有機 J A S 認証品。うち、約5割をかごしま有機生産組合へ出荷。
- 付加価値を付け収益向上を図るため、ウコンの粉末加工場を平成29年（2017年）に整備し、**平成30年（2018年）に有機加工食品 J A S 認証を取得。**
- ウコンの粉末加工は、主に卸業者に販売。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
ばれいしょは、疫病対策として、石灰ボルドーを使用。  
かんしょは、10倍希釈の食酢を使用。
- **雑草対策**  
ばれいしょは、2回の培土（土寄せ）で効果あり。  
かんしょは、畦間を1mに設定し通行可能な小型トラクターによる除草を行うことで、労力軽減及び作業時間の短縮を実現。
- **土づくり**  
全品目で鶏糞を主に使用するほか、雑草をすきこみ緑肥として活用。圃場は3年に1回の輪作（ばれいしょの後に、かんしょとウコンの作付）とし、12haのうち3分の1程度の圃場は、可能な限り2年間休ませる方法をとっている。その間、雑草を繁茂させ緑肥等にするなど、自然の力を活かした地力回復を実施。

## <苦労しているところ>

- 圃場1枚の面積が10a程度と小さく、作業効率が非常に悪い。

## <今後の展開>

- 新しい品目として、モリンガ（薬用作物の一種）の栽培を始めたので、付加価値を付けた販売に繋げる。
- 長命草（薬用作物の一種）の栽培予定。



## <基本情報>

所在地：鹿児島県いちき串木野市湊町

## <農場概要>

- 有機JAS認証ほ場 約3ha  
(ポンカン1ha、温州ミカン0.5ha、  
レモン0.5ha、その他作物1ha)
- 収穫体験が可能



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 父亡き後、土壌流出の発生や「さのう」※が固くなったと感じたことをきっかけに、土づくりが重要と考え、有機農業の基礎を文献で学び、平成9年（1997年）に有機農業に転換。

※さのう：小さい果肉のつぶつぶを包む袋のこと。「さじょう」ともいう。この小さい果肉の集まりを包んでいる薄皮の事を「じょうのう」という。

- 平成27年（2015年）有機JAS認証取得。

## <販売について>

- 会員となっている有限会社かごしま有機生産組合経由で販売。
- その他、ネットやイベント販売の他、顧客へ直接販売。
- 自家製ポンカンジュース（原料は全て自園、720ml入）を、ネットやイベントにて販売。



## <こだわり>

- 使用する苗木は、自園の優良樹から枝採取したものを直接、苗木生産業者へ委託し、接ぎ木したもの。

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
カイガラムシ対策として、有機JASで使用を認められているマシン油を必要最小限使用。
- **雑草対策**  
人力（草刈機及び手作業）。
- **土づくり**  
地元の畜産農家の堆肥に、米ぬか、黒砂糖、草本灰及び発酵菌により発酵させた有機ぼかし肥料を使用。



## <苦労しているところ>

- 面積拡大で、手が回らなくなったため、外部雇用の検討。
- 雑草の除草や段々畑の石垣の保全。
- カミキリムシやナガタマムシなどの害虫対応や鳥獣害の対応に苦慮。

## <今後の展開>

- 有機農産物の良さを分かってもらえる方に、購入頂きたいため、オーガニッククフェスタなどに参加し消費者へのPRを実施。
- 収入の安定のため、亜熱帯性果実であるパッションフルーツの栽培実証を引き続き実施。
- 自然の環境を活かし、農場を昆虫採集など子供に開放して、親子との交流の場とする。



## <基本情報>

所在地：鹿児島県熊毛郡屋久島町

(令和2年度九州地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール九州農政局長賞受賞)

## <農場概要>

- 経営面積6.6 ha (全て有機JAS認証取得、栽培品目は茶)
- 平成29年(2017年)に取得したASIAGAPを今後JGAPに変更予定。
- 従業員：10名(代表含む)



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 屋久島で育った高校の同級生3人が島外から島に戻った際に、3人で出来る仕事を模索する中、島がお茶づくりに最適な土地であるとの話を聞き、平成7年(1985年)に会社設立。1.2haの農地を取得。
- 営農開始時から、有機栽培を開始し、平成13年(2001年)に有機JAS認証を取得。

## <販売について>

- 静岡県の茶商との荒茶の年間契約により、安定した販路確保に努めつつ、一番茶は、自社ホームページを介して全国の消費者、飲食店、小売店等へ直接販売。
- 平成24年(2012年)に輸出開始し、平成26年(2014年)から本格的にEUの有機茶問屋へ仕上げ茶を輸出。EUオーガニック認証で販売。
- 平成10年(1998年)に直売店を開設し、リーフ茶を中心に抹茶ソフトクリームや茶そば等の加工品を製造・販売するのに加えて、島内の他事業者の商品も取り扱うことで、島内の顧客及び観光客を確保。



## <情報発信について>

- 自社HPやSNS(hachimanjyu\_tea)等で、世界自然遺産である屋久島と有機茶とのつながりや魅力を発信中。

## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
農薬は一切使用せず、蓑虫等が発生した場合は、手作業で取り除く。
- **雑草対策**  
草刈り機や人手による除草。
- **土づくり**  
毎年、土壌診断を実施し、診断結果をもとに施肥量を調整。堆肥は、山野草堆肥を使用している。敷きわらを毎年行うことで、土壌生物の多様性確保に務める。



## <苦労しているところ>

- ほ場周辺を杉林に囲まれており、年に何度もある台風の上陸・接近に伴い、杉の葉が大量に茶畑に飛来するため、手作業での除去に手間がかかる。



## <今後の展開>

- 世界自然遺産屋久島の自然を守りながら、人と自然が共生する社会を後世に残すことに貢献したい。
- 今後、島内外の有機農業者、有機関連事業者などとの連携を深め、屋久島のオーガニック化を目指す。

【お問合せ先】TEL. 0997-43-5330

ホームページ<http://hachimanjyu.com>

## <基本情報>

所在地：鹿児島県始良市

## <農場概要>

- 有機JAS認証圃場7ha
- 桑の栽培から加工・販売までを一貫して手がける6次産業型の農業法人
- 従業員25名



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- わくわく園がある鹿児島県始良市は、地域をあげて有機農業に取り組み、有機の郷「あいら」として知られる地。消えゆく桑畑に光を当て、良いものを作って世に送り出したいとの思いから、日本古来のスーパーフードである希少な「桑」で世界に通じる桑専門店を目指し、**平成25年（2013年）に有機JAS認証を取得。**

## <販売について>

- コロナ禍以降、対面中心の販売からネット販売に重点を置く。
- 現在、自社サイトはもとより、有名通販サイトでの販売を展開。
- さつま桑本舗わくわく園仙巖園店やふるさと納税、イベントなどでも販売。

## <わくわく園のビジネスモデル>

- 農家発のブランディング力、自社完結型ビジネスモデルを活かした6次産業化の取組。
- 健康の一助となる桑の葉の市場を切り拓く取組。
- 自社農地の拡大と農家連携の取組。
- 農業を「夢のある職業」に変えていく挑戦。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策、雑草対策**  
無農薬栽培であるため、病害虫及び除草対策は手作業で対応。
- **土づくり**  
良質な堆肥を散布し、農薬や化学肥料は未使用。  
最適な環境での栽培に拘る。



## <苦労しているところ>

- 農作業従事者の確保。
- 近年の気象状況への対応。
- 資材コストの高騰。



## <今後の展開>

- ECにおける桑市場の拡大。
- 若手の雇用創出、女性活躍の推進（促進）。
- 取組中の6次産業化の活性化。
- 耕作放棄地の解消。



## 【お問合せ先】

TEL. 0995-62-3030

ホームページ <https://wakuwakuen.co.jp>

## <基本情報>

所在地：鹿児島県大島郡喜界町湾41-1

## <農場概要>

- 面積：3.8ha（うち有機JAS認証ほ場：2.1ha）※非認証ほ場も有機栽培と同様の生産方法
- 従業員：3人
- 栽培品目：有機さとうきび（純黒糖）、有機白ごま（白いりごま）



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 口にするものとして「安全・安心」なものを製造し、消費者へつなげたいという想いで有機さとうきびの生産を開始。
- 喜界島はサンゴ礁隆起の島であり、降った雨はすぐに地下へと浸みこみ、地下水となって海へ流れ出す。化学肥料や農薬を使用すると、海洋汚染に繋がることや地力の低下につながるなどが問題であると考え、持続可能な農業として、環境にやさしい有機農業に生産当初から取り組む。

## <販売について>

- 酒販売店に黒糖焼酎と、有機黒糖・有機白ごまを一緒に食してもらうことを提案。
- JR九州の食堂列車や都内のフレンチレストランへ販売。
- お菓子の材料として、都内や関東の菓子店へ直接取引。

## <こだわりについて>

- さとうきびの刈り取りは、切り口から劣化が進むため、なるべく切り口を小さくするなど全て手作業で実施。
- きびの先端部分は苦み部分を切り落とし、根元から甘みの強い部分だけを黒糖の原料とすることで、安全・安心でおいしい有機黒糖を製造。



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**  
ワタアブラムシやバッタの防除対策として、忌避剤となる木酢液を散布。周辺の農家にも理解を得ながら、地域一帯で適切な防除を実施。
- **雑草対策**  
できるだけ雑草が成長する前に、手作業のほか刈払機や、自走式モアで除草。
- **土づくり**  
自社で黒糖焼酎を製造する際に発生する、焼酎かす、米汁のほか黒糖製造の際に発生するバガス（きびの搾りかす）を肥料として圃場に還元。

## <苦労しているところ>

- 当初は、害虫や雑草対策について周辺から苦情等もあったが、現在は、普段からコミュニケーションをとることで良好な関係を構築。
- 雑草の駆除。特につる性の雑草がキビに巻き付き、収穫等の作業負担が大きい。

## <今後の展開>

- 有機さとうきび等を生産する仲間を増やし、持続的な農業を進め、喜界島の豊かな環境を守る。



【お問合せ先】TEL. 0997-65-1531

ホームページ：<https://www.kokuto-asahi.co.jp>

## <基本情報>

所在地：鹿児島県出水市下鯖町

## <農場概要>

- 面積：有機栽培水稻14ha  
(うち有機JAS認証：約7ha)
- 栽培品目：米、麦、大豆、玉ねぎ



## <有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和58年（1983年）、農薬を多用する農業に疑問を感じ、農薬を減らしたいとの思いから、同じく有機農法を目指す仲間たちと一緒に有機農法を学び、その延長で**アイガモ農法**も開始。

## <販売について>

- 当園で収穫した米は、商品名「合鴨米」「さわださんちのお米です」として、それぞれ、白米、玄米、分付米として販売。
- 平成29年（2017年）に有機JAS認証工場（はる菜）を整備し、あくまき、餅、山菜おこわ、米粉パンなどの加工食品の製造販売を開始。
- 有機あくまきは、鹿児島の竹の皮を天日に干して使用。木灰のあく独特の風味が特徴。有機JASマーク付きの自家製有機きな粉をまぶして販売。

## <新たな販売先として>

- 令和7年産の有機栽培米は、阿久根市の大石酒造において、有機JAS認証芋焼酎の原料として使用。

有機あくまき  
(有機きなこ添え)



有機JAS認証芋焼酎  
(Hi-Five)



## <病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策、雑草対策（アイガモ農法）**  
当園では、アイガモ農法で、無農薬栽培を実施。アイガモ農法とは、水田にアイガモを放すことで、害虫や雑草を食べてもらい、農薬や除草剤がなくても稲を育てられる農法。アイガモは、ふ化0日のヒナから育て、14日齢で水田に放ち、60日齢ごろまで活躍。
- **土づくり**  
当園では、稲わらと冬草をすき込み、肥料は菜種油粕とグアノを使用。有機肥料によって、土壤微生物の活性化により、土の団粒構造が形成され、「ふかふかの土」「肥料持ちの良い土」へ変化し、農作物が生長。

【アイガモ農法】

## <苦労しているところ>

- 雑草対策。
- 夏場の暑さ対策。
- 夏場の高温等による減収。



## <今後の展開>

- 有機農業を継続し、安定的に有機栽培米を消費者に提供。
- 仲間を増やして連携し、有機農業の更なる普及を目指す。

【お問合せ先】TEL.0996-67-0911

会社ホームページ：<https://sawadanouen.com/>